

会話におけるあいづちの日中比較

——あいづちの頻度から見る日中比較文化論的考察——

劉 潔¹⁾・大橋 眞²⁾

The role of supportive responses in spoken Japanese and Chinese

A comparative study of Japanese and Chinese cultures by the
usage of supportive responses in daily conversations

Liu Jie, Makoto Owhashi

Abstract

The speaker and the listener are essential constituent in daily conversations. Development of the conversation is supported by the response of listener. "Aizuchi" is the supportive response in spoken Japanese, and it plays the indispensable role to take a message of listener's understanding to the speaker. In the present study, we compared the usage of the supportive responses in the typical daily conversations of between Japanese and Chinese. The result clearly indicates that the supportive responses are used frequently in spoken Japanese than in spoken Chinese.

In Japanese conversation, the listener attends the story held by the speaker gradually take part in the partner of the conversation by expressing the supportive response to the

¹⁾青島理工大学外国語学院・²⁾徳島大学総合科学部

conversation is much less than that in Japanese conversation. This is probably do to the effect of culture of Confucianism in China. The listener has to wait until the end of the paragraph of speech by the rule influenced by Confucianism. Furthermore, speaker in Japanese conversation sometimes uses intonation in order to urge the response from the listener. The role of intonation to affect on the frequency of supportive responses should be clarified in future studies.

1. はじめに

会話あるいは対話と呼ばれるものには、話し手と聞き手とが存在する。日常の会話や談話の場合などでは、話し手の問いかけや意見に応じて、聞き手が理解したり、応答したりするという積極的な反応をとる。これによって、コミュニケーションは発展していく。このような聞き手からの反応には、あいづちという言語的な表現がある。あいづちとは、聞いている、わかったということを伝える、話の進行を助けるなどのために、話の途中に聞き手が入れるものである。あいづちを表す言語形式は短く、堀口(1997)は、それをあいづち詞、繰り返し、言い換えという三種類に分けている。あいづちの頻度については、万国共通とは言えないわけであろうし、また聞き手の属している文化によっても一様ではないであろう。あいづちの頻度という概念は、堀口(1997)で、時間あたりのあいづちの回数、あいづち間の発話の長さ、あいづち間の時間、総発話数に対するあいづちの比率など、とらえられている。本論文では、あいづち間の発話の長さという尺度から、あいづちの頻度において対照的であると考えられる日本語と中国語の例を対比して、それぞれの言語における会話の中であいづちが果たしている役割について考察した。また、このような違いがあることに関して、その背後にある文化の違いや、言語が果たす文化形成的な役割についても探ってみたい。

2. あいづちの頻度の日中対照について

2. 1 あいづちの頻度の日中対照の観察

あいづちの頻度の差異の要因としては、聞き手の年齢と性別、聞き手と話し手の関係、談話の目的、内容と流れなどが考えられる。本文は、場面が近い日本語と中国語の例を通して、あいづち間の発話の長さという尺度からあいづちの頻度の日中対照を見ていく。

以下、例(1)と(2)、(3)と(4)、(5)と(6)、(7)、(8)と(9)、(10)、(11)と(12)を対比観察してみる。あいづちと考えられるところが、「——」で示される。

- (1) A: 大野晋 (男、言語学者) B: 司馬遼太郎 (男、作家)

1A: なんで大阪の漫才が、そのまま東京に入るのか...

2B: それはつまりね、カタカナでも書ける、ヒラガナでも書ける、速記できるんです。
上方漫才は...

3A: そうなんです。日本語の正統な流れなんですよ。

4B: そうですね。それはそうだと思います。

(対談 日本語を考える)

- (2) A: 姚長盛 (男、司会者) B: 張弛 (男、ケンブリッジ大学博士)

1A: 拿到一等学位很不容易，是吗？

2B: 的确是。从将近三百多人里面只有六十几人毕业，这六十几人又分了五档，一个是一等学位，其他的是二等一、二等二、三等和及格。在一等学位里的人只有四个。

3A: 只有四个。

(対話与交流)

以下の (3)、(5)、(7)、(8)、(11) では、《 》の言葉は、話している途中で相手が言った言葉やあいづちを表す。

- (3) A: インタビュアー (女) B: 田中久光 (男、凡人社社長)

1A: えーと、それでは最初に、まず、社長として会社経営をなさっていることについてうかがいます。《はい》凡人社を始められたきっかけを教えてください。

2B: はい。ちょうどわたしが役所の外郭団体に勤めてるときに、《はい》、今の日本語教育学会っていう社団法人があるんですが、それが昔は「外国人のための日本語教育学会」っていつてたんですね。《はい》それを社団法人にしてほしいと、《はい》いうことで、その社団法人にするためのお手伝いを始めたのが、この世界に入ったきっかけなんです。

3A: ああ、そうですか。《はい》凡人社ってとても変わった名前ですが。

4B: はい、あのね、これは、新しくて古く感じてもらうためにつけたんですね。《ほー》それで、笑われちゃうんですけども、あの時分にね、どこの駅に行きましても、「ロンジン」って時計の看板があがったんですね。《はい》それで、わたしがいちばん考えたのが、外国人に母音でいちばん聞き取れやすい音 《ほー》、覚えやすい名前をつけたいなと 《はい》と思ったわけです。で、その「ロンジン」を変化させていくうち

に「ぼんじん」っていう言葉が出てきて、《はい》で、漢字でつけますと、賢くない人がやる会社だから、「凡人社」という名前にしたわけです。

5A: ははは。ご謙遜でしょうけど。

(日本語ジャーナル 2001.9)

(4) A: 陳魯豫 (女、司会者) B: 李彦宏 (男、百度ネット社長)

1B: 機会赶得不错, 这一点我必须得承认, 而且从这个角度来讲我是一个很幸运的人, 正好赶上了这几个浪潮。像美国的互联网商业化时正好是我进入工业界开始工作了, 中国互联网起来的之后正好就是我回来创业的时候, 就发现缺这么一个中文搜索引擎, 然后就做起来了。很多时候这个机会想一想, 没准也有些巧合的东西。有些机会我自己也觉得“哟, 挺可惜的, 这个机会我没抓着”。比如说在90年代中期的时候, 其实我们周围的一些朋友已经开始回国。他们那个时候回国主要就被他们的美国公司派回中国去做中国代表什么的, 比如说他是一个汽车厂或者说什么造纸厂搞化工的, 中国这些东西都发展很快, 也很需要人, 那么美国公司会考虑到正好你是中国人, 那就派你回去吧。我也挺想回去的, 但是没人派我回去。我后来一想, 人一生当中你这个机会丢了, 可能下个机会会比这个机会更好, 如果你是有心人的话, 总能抓住一些机会。你也不用抓太多, 抓住一些机会就能够做得很好。

2A: 对, 上帝关上一扇门一定会打开另外一扇窗。(人气——鲁豫有约)

(5) A: インタビュアー (女) B: 神崎たか女 (女、「地唄舞」の舞踊家)

1A: 地唄舞っていうのは、《ええ》あの一、一般的に日本舞踊、日舞とは、《ええ》どう違うんですか。

2B: 踊りというのは、いわゆる、あの、皆さん、ご存じの歌舞伎でございますね。《はい》歌舞伎の間に所作事といって、あの、踊りがございますね。《はい》あの部分をこう、切り取ったものが、いわゆる歌舞伎踊りが、あの一、日本舞踊なんです。

3A: はあ。

4B: それを、今、ま、一般に日本舞踊と言ってるわけ。《ああ》それで、それと別に、その地唄舞っていうのは、その字の通り、説明すれば、あの、地唄に合わせて舞うから地唄舞なんですけど、《ああ》その地唄というものがどういうものであるかということになると、その、京阪、つまり京都とか、《はい》大阪に、あの、昔から歌い継がれていた、つまり、大阪、京都の土地の「地」なんですわ。

5A: ああ、地唄の地は、京都、大阪……

6B: ええ、京都、大阪、そうです。京坂の地なの。地唄、いわゆる。こちらからいえば、ローカルソングみたいな感じの、《ええ》 それに合わせて舞うんで、地唄舞ということになるんですけど。

7A: ふーん。 (日本語ジャーナル2001.2)

(6) A: 王莉 (女、司会者) B: 趙琳 (女、芸能人)

1B: 挺苦的, 这个戏真的是不停地流泪, 很伤感的戏。有那种大场的哭戏, 两个人在互相倾诉什么的, 拍完后挺难受的, 更让人难受的是, 有那么几场戏是不能哭出来, 而是要压在心里面, 眼泪不能掉出来, 强忍着, 装着让对方觉得你现在过得不错。

2A: 强颜欢笑。

3B: 对对。 比如有一场戏, 我和演对手戏的陈坤在一个餐厅对话, 我们面对面坐着, 谁都没有流泪, 他问我最近过得怎么样? 这样一场戏, 全都压在心里。拍完以后, 我们俩都特别难过, 要分别找一个地方平静一会儿才缓过来。

4A: 你的人生经历好像对你演这个戏很有帮助。

5B: 我自己也这样觉得。 (情感档案: 名人讲述自己的人生故事)

(7) A: インタビュアー (女) B: 中村里美 (女、異文化コミュニケーション誌『月刊プラザプラザ』編集長)

1A: 『月刊プラザプラザ』《はい》 を編集してらっしゃるわけですけども、《はい》 これを始めたきっかけとか、《はい》 いきさつを教えてください。

2B: もともとは同じような雑誌になるんですが、『ひらがなタイムズ』という、あの一、やはり、外国人向けの雑誌がありまして、《はい》 その編集長を8年間、あの一、していたんですけども、その後、えーと、1998年の8月に独立しまして、で、あの一、『月刊プラザプラザ』を創刊しました。 (日本語ジャーナル2001.6)

(8) A: インタビュアー (女) B: 中村里美 (女、異文化コミュニケーション誌『月刊プラザプラザ』編集長)

1A: じゃ、お仕事では、外国人の方と、《はい》 交流することが、《はい》 多いわけですね。

2B: そうですね。 《うーん》 はい。

- 3A: 外国人の方と交流するなかで、《はい》今まで一番感動したことはなんですか。
- 4B: そうですね、あの、日々、あの、新しい出会いがあるたびに、《はい》いろんな感動があるので、これといって一つというとなかなか難しいですけども、《ええ》ただ、ほんとうに文化、習慣、生活スタイル、そして、時に宗教や政治の体制も違う、いろんなさまざまなバックグラウンドを持つての方たちとの交流のなかで、《はい》あの、うーん、その方たちとの会話のなかで、《はい》いろいろ自分にそなわってくる新しい視点だとか、新しいものの考え方というのが、《うん》とても自分自身を豊かにしてくれる。《ああ》それが非常に、とても感動してることです。
(日本語ジャーナル 2001. 6)

- (9) A: 陳魯豫 (女、司会者) B: 于丹 (女、学者)
- 1A: 最不能忍受的是什么?
- 2B: 盗版!
- 3A: 其实对人来讲, 我觉得不管他对你怎么表达, 他都会是一种善意。
- 4B: 对, 我觉得这个世界上所有的善意都应该得到尊重, 我最不能忍受的就是铺天盖地的《于丹说八子》, 什么《于丹诸子全集》。 (人气——鲁豫有约)

- (10) A: 陳魯豫 (女、司会者) B: 于丹 (女、学者)
- 1A: 你还收研究生吗?
- 2B: 收, 一直在收。
- 3A: 真的? 报你的研究生得了。
- 4B: 我的研究生都说, 我们老师开的最好的一门课叫《跟我玩儿》! 实际上我一直在跟学生讲, 一个连玩儿都不会的人你还学得会吗? 我觉得玩儿是什么? 玩儿我们要是赋予它一个冠冕堂皇的名字就叫做“善待生命”。 (人气——鲁豫有约)

- (11) A: インタビュアー (女) B: 望月昇 (男、株式会社アミックス社長)
- 1A: 御社の場合、《はい》ほかの不動産屋さんと比べて、外国人にとっても親切なサービスをされているっていうふうに聞きましたけれども、具体的に外国人向けには、どのようなサービスをしてらっしゃるのでしょうか。
- 2B: えー、わたしどもの会社は、中国出身の方に、社員がおりまして《ああ》まあ、同胞の方が、ある面でいらっしゃるという《はい》点が大きいです。それから、具体的には、例えば契約書《はい》に中国版と韓国版の契約書をもってるという《はい》

ような面でも象徴的には大きいかなというふうに思いますけれども。

- 3A: ああ、それはずいぶん助かりますよね、外国人の方にとってはね。
- 4B: はい、そう思います。やっぱり、自分たちのよくわかる言葉で書いてあるほうが理解をされるのかなというふうに思います。
- 5A: はい。外国人が家を借りるときに、または入居してから、注意したほうがいいことがあれば教えてください。
- 6B: はい。えー、まず、日本の風土になじむということを意識的に考えてやっていたらいいかなというふうに思います。
- 7A: なにか今までトラブルとか、そういうこと、ありました？
- 8B: 例えば、えー、Aさんと契約をしまして、《はい》 Aさんは当然、借りられると思って、友達のBさんに住ませると。
- 9A: 又貸してみたいな。
- 1 OB: 又貸してみたいな。《ああ》で、Aさんは、自分がお金を払って、そこを住む権利があるから、AさんじゃなくてもBさんでも同じだと《ああ》という理解をされてたようで、《ああ》でも日本の場合は、貸すのは特定のAさんという人に貸してるという理解の部分が、少し足りなかったのかなど。《ああ》本人の方はお金を払ってるし、《うーん》 正当にここを占有できる権利みたいなの、そういうのはあったんだと思うんですけども。
- 1 1A: ああ、そうするとやっぱり、契約書なんか分かりやすい《ほうが》母国語だと助かりますよね。《はい》
(日本語ジャーナル 2002.3)

(1 2) A: 叶蓉 (女、司会者) B: 傅国华 (男、カナダ KFS 国際建築事務所所長)

- 1A: 您到了加拿大以后，据说您设计的作品，加拿大导师看不懂，这是为什么？
- 2B: 这是一个教育的方法问题，西方教育和东方教育在意识形态方面是完全全不一样的。比如我们设计一栋房子，在中国，你看同济大学房子是不是这样的，房子的角落是个卫生间、是个楼梯间，对不对？在加拿大的时候，这个地方是一个总裁办公室，因为它两边邻窗，这是根本的差别是不是。老师觉得很奇怪，这么好的地方，你放成楼梯间卫生间干什么，就觉得很奇怪。还有我们经常做一个居住区，老师教导我们居住区要从主要干道进入到一个次要干道，再进入一个支路再回到你的家，其实人的行为模式不是这样的。他是走到哪里靠着家近，他就走进去了，他不会绕一个大圈子。
- 3A: 他不会先去走主干道，不会的。

4B: 老师就觉得很奇怪, 这个中国学生怎么会这样的, 这个思维方式完全全是不一样的。幸好我有一个拿手好戏, 我的钢笔画是画得很漂亮的, 我能够很简单地把我的设计意图表现出来, 老师看了你的设计意图不怎么样, 但是你的设计意图的表现方法是非常好的, 然后他就觉得这个学生有救, 改变一下方向就有救了。

5A: 换一种思维方式。

6B: 一种很痛苦的思维方式的转换。每次做设计, 先做好, 做完了, 这个东西肯定不对, 再把它搬过去, 先要否定自己。我想我现在中国的事业比较成功, 也是因为我至少在加拿大工作了这么多年, 在那里生活了很多年, 我知道西方人是怎样生活的。他们的设计为什么是这样的, 而不是我走在马路上看一下, 这样的房子是这样的, 然后我去抄一个, 或者从书本上抄一个, 但是你不了解其中的状况的话, 你是根本做不好的。

7A: 那为什么要离开这样一个公司, 去开办自己的设计公司?

8B: 在我之前我们还有一个人, 他工作得也蛮好的, 某一天一个合伙人会议, 就把他除名除掉了。他什么东西都没有了, 尽管他做得很好。合伙人有一个关键字眼, 你如果在这里面工作的话, 当你离开这个公司的时候, 不管你是多大的合伙人, 离开这个公司你一无所有。你以前设计的任何作品, 都不是冠用你的名字, 设计专利是归公司的。

9A: 设计专利是归它的。

10B: 某一天我就在想, 我不离开这个公司的话, 到我年纪大的时候, 我是一无所有。

11A: 就是有一天不是您的原因, 也有可能一夜之间一无所有。即便是您在 B+H 做到一个副总裁的位置, 即便它是一家有国际影响力的设计师事务所, 您还是决定离开它。

12B: 对, 我决定离开它。 (财富人生)

2. 2 あいづちの頻度の日中対照の結果

以上の日本語と中国語の会話を例にして、あいづちの使われ方に関する比較をおこなった。日本語の会話例の(1)、(3)、(5)、(7)、(8)、(11)のいずれにおいても、中国語の会話例の(2)、(4)、(6)、(9)、(10)、(12)より明らかにあいづちが使われる頻度が高い。日常的な日本人同士の会話において、しきりにあいづちを打つという現象がよく見られると言われている。特に聞き手が、話し手からの一方的な話に対して、あいづちを打ちながら聞いているという光景も一般的である。話し手が話をしている途中に聞き手があいづちを打つと、「聞いているよ」との意味が話し手に伝わり、話し手に対して話し続けるように促すことができる。これは、中国人の会話においてはほとんど見られないものである。中国語の会話では、話し手が言い終わってから聞き手はあいづちを打つのが普通である。

会話におけるあいづちとあいづちの間の話しの長さを比較すると、日本語の場合は比較的短く、中国語の場合は長い。そこで、あいづちの頻度については、日本語の方が会話の中での

あいづち率が高く、中国語の方があいづち率が低いと言える。これらをまとめると表1のようになる。

表1. 日本語会話と中国語会話におけるあいづちの頻度の比較

	日本語の会話	中国語の会話
あいづち間の発話の長さ	短い	長い
あいづちの頻度	高い	低い

2. 3 あいづちの頻度の日中対照からみる各々の特徴

前述したように、日本人はあいづちを打ちながら、話し手の話を聞いている光景がよく見られる。これは、日本人のあいづちの一つの特徴として、話し手の表現を受けてから、聞き手が新しい言葉を発したり、新しい感情を表したりすることではなく、常に、話し手の言い切らないうちに、聞き手はあいづちを入れるということがある。つまり、聞き手は話し手の表現に対して頻回に呼応するような形で聞き手と話し手の両方で会話をつくっていくのである。このように、会話が話し手からの一方的な表現で始まった場合であったとしても、聞き手はあいづちという手段を用いて、話し手と聞き手双方が共同で会話を進めていく過程において、次第にその内容に関しての意見の共有化を図っていくというような展開をとるのである。そのために、あいづちによるお互いの意思表示は、日本人のコミュニケーションを円滑に進めるための支えとして、重要な役割を果たしていると言えよう。それに対して、中国のほうは、話し手の発話が終わるまであいづちを打たず、黙って聞いていることが多い。このように会話の構成要素とその展開におけるあいづちの役割は、日中間で差が見られる。これらの日中比較の結果をまとめてみると、表2のようになる。

3. あいづちの頻度の日中差異からみる文化の違い

日本人がしきりにあいづちを打つのは、決して会話をじゃましているというわけではない。むしろ日本人の会話においてあいづちの頻度が高い背後には、相手への思いやりということがあると考えられる。聞き手は頻繁にあいづちを打ちながら、「理解しているよ」、「聞いているよ」というメッセージを短いフレーズごとに話し手に伝えることにより、話し手は、安心感を持ちながら、スムーズに話を進めていくことが出来る。このように日本人の会話においては話し手は、話をするときに聞き手のあいづちによってずいぶん力づけられたり、助けられたりすることが多い。とりわけ、自分の話にあまり自信がないときには、あいづちの効果がより顕著に現

表2. 日本語と中国語における会話の構成要素とあいづちの比較

	日本語の会話	中国語の会話
会話の構成	共同制作の会話（共話の会話）	一方的にまとまりをする会話
会話の展開におけるあいづちの役割	ある一つの文、または一つの単語、さらに一つの音を発する場合にも、聞き手があいづちを打ちながら、話し手といっしょに会話そのものを作っている。	話し手の表現を受けてから、聞き手があいづちをいれて、新しい意見や感情を表明したりする。

れる。話し手は聞き手のあいづちによって勇気づけられ、話を進めていく自信を得て、話しがさらに展開していくことに繋がっていく。大勢の聴衆を前にした講義や講演においても、生徒や聴衆のあいづちをうなずきとして視覚的に認識することにより、相手の理解や興味を逐次的に確認することが出来る。このようにして、大人数を相手にした場合でも、聞き手はあいづちによって、話し手に対してその方向に話を進めていっても良いとするめやすとしてのサインを送り、話し手は、聞き手のあいづちにより自らの話しの進め方に対する自信を得る。

つまり、あいづちというのは、相手への思いやりという一面がある。しかしながら、あいづちの主な役割は、話し手が一方的に話しをするのではなく、聞き手があいづちをうつことにより、会話という形に持ち込むことである。このようにして、当初は話し手の一方通行であった話しでも、聞き手はあいづちという手法で次第に会話の方向性に持ち込んでいく。この過程を通じて、話し手から始まった一方的な話しは、聞き手の思いやりを取り入れながら、次第に共同制作としての会話が成立していく。さらに、あいづちは聞き手が、話し手との意志の共通性を、話し手に積極的に明示しようとする姿勢を表すものという役割がある。このように、日本においては、頻度の高いあいづちが話し手と聞き手の親密度や信頼関係などを現す指標としてみる事が出来る。

それに対して、中国では伝統的な文化の象徴の一つとして、孔子の思想があり、現在でも多くの人からの尊敬を集めている。孔子の思想の中でも、「礼」は最も中心的な思想の一つであり、人間関係の規範をつくり、社会の安定に繋がる思想として、2500年という長年にわたってこの国の人々の心の中に生きている。『論語』の中では、「礼」に触れた論説が七十四箇所もあるそうである。「礼」は、いづいどんな場合においても、言行を忠実に守り、しかるべき順序を守らなければならないという思想がその中心にあると思われる。

中国では、現代の日常生活においても、他人と交渉するときには、「マナー」「礼儀」と共に「礼」が最も重視されている。一般的な会話の中でも、話しをする人の順序を守ることが大切であるとされている。つまり、話し手が自分の話を完全に言い終わってから、聞き手はそれに対応する形で、自らの新しい意見や感情を表明すべきであると考えられている。従って、話し手の言い切らないうちに、あいづちを入れることは、話し手の話を中断したり、じゃましてしまうと思われる傾向にある。さらには、このような行為は「礼」を欠くことであり、聞き手としてのマナーが悪いと考えられてしまうことも起こりかねない。したがって話し手の話が、まだ文の途中であると思われるときには、一般的に聞き手はその話を黙って聞いているほうが無難であり、マナーが良いと思われる。そのためにも中国語での会話においては、あいづちの頻度が、日本語の会話に比べてはるかに低く、そのかわりとして一つのあいづちの長さが長くなっていると考えられる。このようにして、日本語での会話にみられるような、あいづちによりお互いに会話を通しての共同体形成を行うような行為は、中国においては「礼」を重視する思想の影響により、あまり発達しなかったと思われる。

4. おわりに

今回の研究においては、典型的な日常会話について日中比較を行いあいづちの頻度を比較した。その結果あいづちの頻度は、いくらかの例を通して日本語の会話においてはあいづちの頻度が高く、中国語のほうは低いという結論が得られた。また、それらの例の観察から見た会話におけるあいづちの役割と、その原因と考えられる日中文化の違いを探ってみてきた。今後の研究の課題としては、日本語会話の経時的変遷を探りながら、あいづちの頻度が変わってきているのかを検証することがあろう。これにより、あいづちの頻度の日中差が、「礼」を重視する思想の影響であることを裏付ける証拠が得られる可能性がある。また、実際の日常生活においては、会話そのものの成因や発展過程は様々な要素が入り組んだ複雑なものであるために、あいづちが会話の発展に果たす役割についての解析をさらに進めて行くためには、様々な観点から多彩な日常会話について、長期的な観察が必要であろう。たとえば、会話におけるあいづちに関して、会話のなかでのイントネーションの使い方に関する問題がある。話し手の場合から、聞き手の側にあいづちを要求するイントネーションをつけて話すことがあり、このような行為がその後の会話の発展にどのような寄与があるかなどについても、今後の課題として考えなければならない。

謝辞

この論文は青島理工大学プログラム—「遠距離ネット教育についての実践と検討」(NO10-16)の成果の一部である。ご協力いただいた関係者に深く感謝申し上げます。

参考文献

- 堀口純子 (1997) : 『日本語教育と会話分析』、くろしお出版。
- 水谷修 (1982) : 『話しことばと日本人』、創拓社。
- 大野晋 (1975) : 『対談 日本語を考える』、中央公論社。
- 『日本語ジャーナル』2001年2月号、p37、株式アルク
- 『日本語ジャーナル』2001年6月号、p37-38、株式アルク
- 『日本語ジャーナル』2001年9月号、p39、株式アルク
- 『日本語ジャーナル』2002年3月号、p40、株式アルク
- 北京电视台《国际双行线》栏目组 (2001) : 《对话与交流》, 文化艺术出版社。
- 凤凰卫视《鲁豫有约》栏目组编 (2008) : 《人气——鲁豫有约》, 中国友谊出版公司。
- 王莉 (2005) : 《情感档案: 名人讲述自己的人生故事》, 中国言实出版社。
- 上海卫视《财富人生》节目组编 (2006) : 《财富人生》(第2版), 上海教育出版社。